

# 果樹カメムシ情報第3号

平成28年7月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病虫害防除室

果樹カメムシ類はヒノキ球果などを餌に成育しています。  
ヒノキ球果量はやや少ない～中程度であるため、  
今後、越冬世代成虫が果樹園へ再飛来する恐れがあります。

## 1 発生状況

- (1) フェロモントラップにおける誘殺数は、スギ・ヒノキ林に近い場所に設置した新城市、幸田町で7月上旬に急増しました（図1）。
- (2) 予察灯における誘殺数は、チャバネアオカメムシは平年並ですが、ツヤアオカメムシはやや少ない状況です（図2）。
- (3) 現在、果樹園への飛来は多くはありませんが、ナシやカキで、果樹カメムシ類による被害が一部地域で見られます。

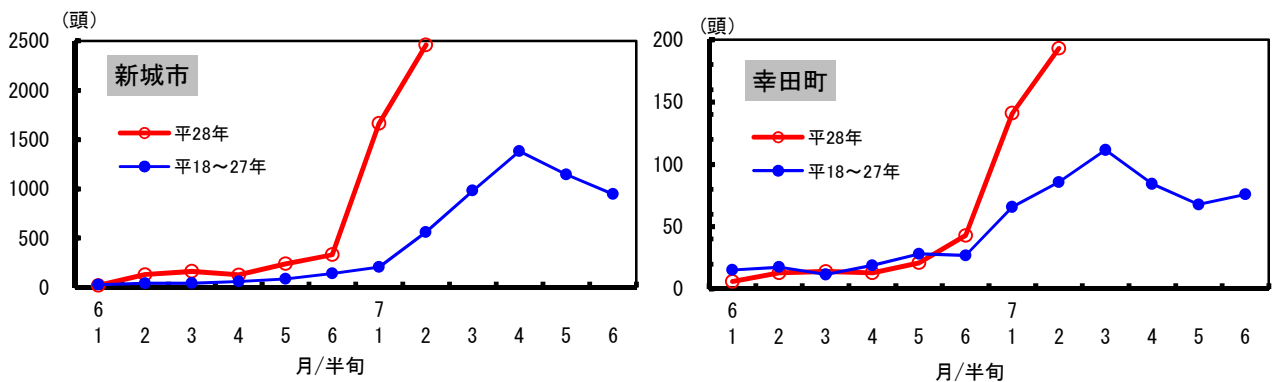


図1 チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数

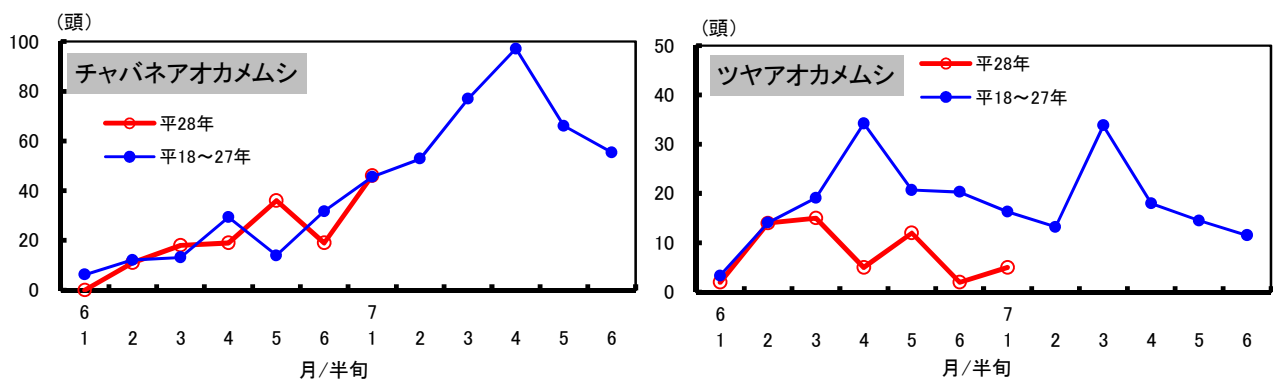


図2 豊橋市の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数

## 2 今後の発生予測

現在、果樹カメムシ類はヒノキ球果などを餌として成育していますが、球果が吸汁され、餌として適さなくなると、果樹園へ飛来してきます。本年は、越冬成虫量がやや多く、餌となるヒノキの球果量がやや少ない～中程度であることから、越冬成虫がヒノキ球果を食べ尽くし、餌を求めて再び果樹園へ飛来するおそれがあります。ほ場での発生状況に十分に注意し、防除が手遅れにならないように適期に防除しましょう。